

珍しい田畑転換

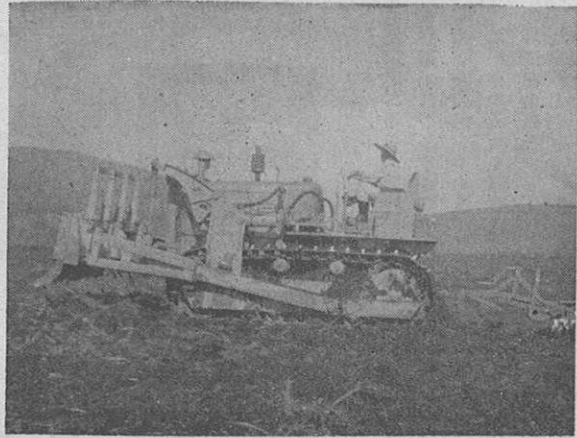
阿蘇地方は一般に地味がやせていて、これを肥沃にするための土地改良が産振の大きな重点になつてゐる。

先ず阿蘇谷中東部地区土地改良事業というのが実施中である。これは同地域の、八五五町歩に及ぶ湿田、いわゆる牟

〇万円、四五三町歩の田地をつくつて増産一萬石を見込んでゐる。この事業の特徴は、灌漑水量が足りない

ので、田を四一三年、畑を二一一年の

農地生まれゆく耕地



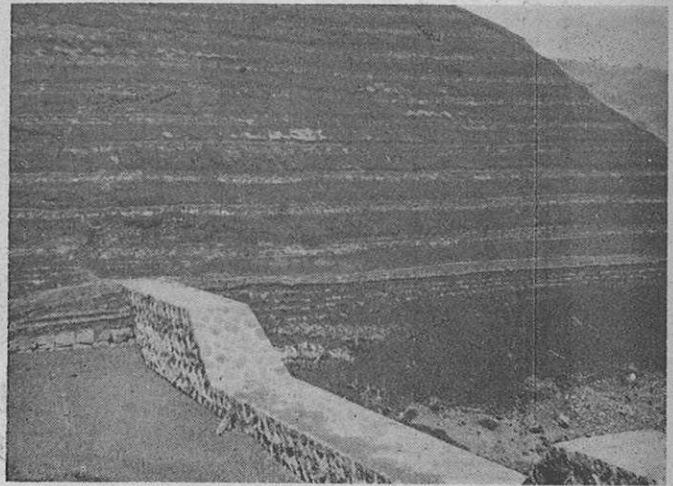
★ トラクターによる開こん ★

田の排水を目的とするもので、延長二万

米に及ぶ排水路をつくるため、総工費一億九、三〇〇万円を投ずる大事業、三十二年に始めて三十五年完了の予定だが、完了の暁には一萬二、五〇〇石の米を増産するというからたのしい。

次には三十三年度から実施される阿蘇谷台地土地改良事業で経費三億三、〇〇

割で交互に作るものがこのうち三四一町歩あり、これは田畑転換といつて全国でも珍しい



★ 山腹の堰堤工事(阿蘇町楢山) ★

完了近い災害復旧

阿蘇は土地が広いだけに未墾地も多く農地開拓事業がまた産振の一基盤。

開拓にはいわゆる入植者によつてする集団地開拓と一般農家によつてされる地元増反とがある。阿蘇の集団地は二十カ所、着工されているのが十カ所だが、地元増反の方は八十%が着工されている。集団開拓にはいろいろ困難が伴い、場所によつては地元からの買戻し要望もあるという。しかし、中には強固な意志と合理的な運営で成績をあげているもの

少くないようだ。今一つ阿蘇の農地で問題になつてゐるのは災害復旧である。去る廿八年の六・二六大水害の後始末は特に難物だつたが三十一年度までに十五地区が完了、更に四地区(白水村高木川・渋川、長陽村垂玉川、小国町北里川)は本年度中に完了の予定である。筆者は六・二六直後に訪ねた南郷白川筋の惨憺たる被害の後と、今日の復旧ぶりを思い合せて、関係者の努力の後に合掌した。

ことしや犬どし

俳句の犬

冬川や孤村の犬の囀(うそ)を追ふ 蕪村
稲の夜や犬の子のなく縁の下 鹽牧
初雪や犬の面出す杉の垣 其角
川柳の犬
すげ笠で犬にも旅のいとまごい
まん丸によめ菜の残る犬のくそ
スピッツはアクセサリーに生れつき
肥後狂句の犬
有難いわく、宇宙犬てちはやされ
屋根葺が、笑うて見るとるはじか犬
千鳥足、引くシエパードに引つぱられ

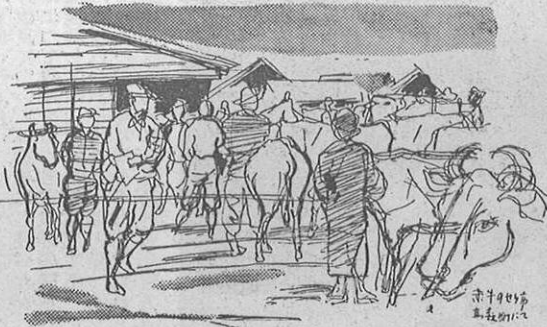
畜産

王国阿蘇の誇り

肥後赤牛の本場

戦争はあらゆる産業に打撃を与えたが阿蘇の畜産もまたその例にもれず、終戦当時はみじめな状態だつた。それが産振計画、総合開発、計画建設と一連の県是国策によつて急速に復興、現在では

- 和牛 二五、〇〇〇 馬 五、〇〇〇
- 〇〇 綿羊 一、五〇〇 山羊 一、三〇〇
- 〇〇 鶏 六〇、〇〇〇 羽



と戦前を上廻る数字を示している。

役牛として定評のある肥後の赤牛は阿蘇が本場で、広大な原野を利用した牛の飼育は農家の大きな収入源、筆者の訪問した十二月十日は丁度高森町で牛の市場

が開けていたが、各町村から集まつた数百頭の赤牛の間を、右往左往する県内外のバイヤーたちが、目の色をかえてよい牛もがたと物色していた。

市場は年六回開くそう、郡内の市場は小国、宮地、内牧、波野、山西、白水、高森、菅尾の八カ所となつてをり、売買される年間一萬頭の仔牛は概ねこ、を通過して郡内はもろもろの内外まで運ばれる。県では計画建設の線に沿つて、その生産量をふやすとともに、資質の向上に努めており、更に役畜から用畜へ進める方針で指導しつゝある。一宮町に今年層場の出来たのもこれにながっているようだ。その池田・山羊・鶏卵の増産、経営の合理化による不足しがちな農家の現金収入を多角的にひろめようとしている。

冬も青草のご馳走

一方こ、二三年でメキ／＼頭角をあらわして来たのは酪農だ。特に政府の集約酪農地域指定に拍車されて、昨年始めには豪洲からジャージー種乳牛の大量導入があり、現在乳牛の数は

ホルスタイン 三六五 (阿蘇谷) ジャージー 一一〇 (小国地方) となつてゐるが、年度末までには更に導入その他で一千頭までこぎつける意気込みである。

こうして日増産の一途をたどる牛乳の処理については、昨年坊中と小国に相次いで処理場がつけられ、栄養価ゆたかな牛乳によつて地域の食糧改善にも大き



畑作振興のコース

現在阿蘇の耕種農業(米麦菜種等の作物)は年間約二十六億円の収益をあげてゐるが、計画建設によると昭和四十年ま

社会経済のテンポですゝむ

な役割を果しつゝある。ところで、この酪農と切りはなせないものは牧野の改良、六・二六大水害の復旧ともつながつて、ブルトリーザイやトラクターが三台導入され、開墾に大奮となつてゐる。

牛の資質向上に還元されるわけだ。これに併行して畑には各種の根菜類や燕麦などが青刈飼料としてつくられ、サイロに貯蔵されてふだんに牛馬の食糧をにぎわして来た。トウモロコシも従来は人間の食糧としてつくられたが、今では青刈飼料として、実とともに牛馬の食糧に移行しつゝある。

でに四十四億円で引上げることになつてゐる。先ず稲作だが、それには保温折衷苗代の奨励、早期栽培の普及、耕地面積の拡張、土地改良等がその方策。

畑作振興では、〇〇町歩を少くとも半分は畑作の早期栽培に切りかえること、残る唐もろこしは青刈飼料としてサイロに保存し畜産振興にふりむけること、実取の麦作も葉菜栽培として青刈飼料とする、高冷地独自の園芸作物(キャベツ、白菜、ごぼう、大根、人参、里芋など)を作ることに、農機具を改良して労力配分を合理的にし過労を防ぐこと、等々。

一戸年収四十五万へ

今のべたように牧野改良とならんで畑作からも飼料をつくりこれによる酪農振興で、現在の畜産年収五億を昭和四十年には十億へのぼす。そうして前記耕種農業の収入四十四億を五十四